

口頭発表 第1日

2月6日(木) 14:50 ~ 16:05

口頭発表の記録について

<口頭発表の録音について>

自己学習に使用する場合であっても、録音できません。自校の記録等として参加者が録音を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

<口頭発表の撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、撮影できません。自校の記録等として参加者が写真及びビデオの撮影を希望する場合は、発表開始前に司会に申し出てください。

口頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 A会場 3階 中研修室(1)

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

高等学校 グローバル人材育成
[文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール]

課題研究と問題解決力育成授業研究を通じた
グローバルリーダーの育成

県立秋田南高等学校 教諭 關 友明

本校は平成27年度より、グローバルリーダーの育成を掲げる「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受けた。本校では、グローバルリーダーに必要な能力の育成を目指し、生徒がグローバルな社会課題に取り組む課題研究と、教員による問題解決力育成授業研究を行ってきた。地域や海外の大学や専門機関等と連携したこれらの取組を通して、表現力や発信力、積極性などの高まりが見られ、生徒は多様な活動や進路にも挑戦し実績を挙げるようになった。5年間の取組の概要と成果を報告する。

② 15:35~16:05

小学校 教科等指導 授業改善
[文部科学省委託 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業]

主体的・対話的に学ぶ子どもの育成
～協働で学びを深める「シンカタイム」と自己を見つめ次の学びにつなげる「振り返り」～

大館市立城南小学校 教諭 三澤 章子

城南小が目指しているのは、「反応・共鳴し、関わり合う」学び合いである。授業の中で、児童が課題に向かって主体的に話し合い、学び合い、考えを深めていく活動を「シンカタイム」とし、発達の段階に合わせた話し合いを行っている。シンカタイムを含む学び合いに主体的に関わることにより、振り返りの内容も充実してくる。教師の姿も変わってくる。今年度のキーワード「協働力～5パワー」を合い言葉に、全校で取り組んできた2年間の実践を紹介する。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 B会場 1階 中研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

高等学校 教科等指導 授業改善

**複数学科・コースを有する高等学校における
地域と連携した探究活動の推進
～「北鷹スタイル」の確立を目指して～**

県立秋田北鷹高等学校 教諭 柴田創一郎

本校は3学科6コースを有する統合校であり、多様な生徒が在籍する。昨年度で文部科学省指定事業（SSH）が終了し、1年生は「総合的な探究の時間」がスタートする節目の年、地元自治体等の協力を得て、地域課題解決学習を中心に据えた探究活動を開始した。生徒は市役所各課の担当者から地域の現状・課題を聞き、定期的に進捗状況を報告して助言を受け、校内外で調査・取材を重ねたことで、以前より主体的に学びを進めることができた。

② 15:35~16:05

小・中学校 教科等指導 授業改善

**主体的に課題に向かい、ともに学びを深めていく
児童生徒の育成
～小中併設校の利点を生かした学び合い、振り返り活動の充実を通して～**

上小阿仁村立上小阿仁小中学校 校長 吉田 純
教諭 三浦 知佳

上小阿仁小中学校は小中併設校として12年目を迎えた。学習課題について主体的に考え、自分の考えを伝え合い、学び合うことで児童生徒がよりよく育っていくと考え、今年度の研究主題を設定した。今年度は、3年間の「スクールマネジメント計画」の2年目。四つの柱に沿って、小中共通の具体的なプランを立て、小中相互の利点を生かして実践を進めることで児童生徒が落ち着いて学習に向かい、積極的に自分の思いを表現できるようになってきた。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 C会場 1階 美術研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

高等学校 ふるさと教育・キャリア教育
[秋田大学教職大学院研修]

**キャリア教育の再構築をめざしたカリキュラム・マネジメントの在り方
～地域の進学拠点校における主体的な自律学習者の育成をめざして～**

県立秋田高等学校 教頭 山城 寛幸

進学者が中心の学校において、生徒が自己の進路目標を達成するためには自律した学習者となり学びを省察し深めていかなければならない。また、そのような生徒を育成するためにはキャリア教育の充実が必要である。本研究では、進学校でのキャリア教育を軸としたカリキュラムの在り方を探り、個々の教育プログラムが体系的に繋がり効果的に行われているかどうかについて評価し、キャリア教育の充実の一助を目指すものである。

② 15:35~16:05

高等学校 学校運営
[秋田大学教職大学院研修]

**教師の協働的活動を通じた学校改善
～高等学校の組織特性を踏まえた学校改善アクションリサーチ～**

県立大曲農業高等学校 教頭 高橋 司

個業型の学校組織を問題と捉え、教員の自律性を基盤にしつつ、協働のプロセスを成立させるアクションリサーチを実践することにより、協働型組織への変革を目指す。実態認識の活性化、学校の課題形成と共有、実践の変革などコア・システムにおいて情報交換されたデータをファシリテート機能をもつ委員会で情報の整理・集約をしてフィードバックすることにより、チームとして協働的に教育活動を展開させるシステムを提案する。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 D会場 3階 中研修室(2)

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

特別支援学校 特別支援教育 教育課程

児童生徒の「生涯学習力」を高める教育課程の編成に向けた取組
～ワーキンググループによる校内研究～

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
教諭 櫻田 佳枝

近年、特別支援教育の生涯学習化が推進されている。本校では、卒業後の学びにつながる力を育みたいと考えた。自ら様々なヒト・モノ・コトに関わり、生涯にわたって成長しようとする力を「生涯学習力」と名付け、現段階で何が必要か検討し、教育課程に反映させることを目指している。今年度は従来の学部ごとの研究体制の枠を越え、ワーキンググループによる研究を進めてきた。各グループの中間研究結果について報告する。

② 15:35~16:05

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業]

視覚障害教育の専門性に基づく指導の充実

県立視覚支援学校 教諭 深川 亮

目指す幼児児童生徒の姿の実現を図るため、授業や生活指導及び教員間の連携において、「視覚障害教育の専門性の維持と継承の仕組みづくり」及び「視覚障害教育の視点（環境・核になる体験・言葉）に基づく授業づくりや生活指導の充実」を重視して全校研究に取り組んだ。その成果として、前者では「流れ図作成等による自立活動の指導の明確化・具体化」、後者では「共通実践事項に基づく効果的な手立てによる幼児児童生徒の変容」が挙げられた。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 E会場 2階 授業研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

小学校 ふるさと教育・キャリア教育

郷土に学び郷土と共に歩む教育
～「森岳子ども歌舞伎」に関わる学校の取組～

三種町立森岳小学校 教諭 納谷 宗樹

本校は、60年近い歴史がある温泉と、じゅんさい生産量日本一を誇る山本地区の中心に位置する全校児童97名の小学校である。地区には260年以上も続く森岳歌舞伎があり、平成27年に本校児童で歌舞伎クラブが発足した後、歌舞伎保存会から教えを受けて活動し、町内のイベントで活躍している。学校では、地域の伝統芸能を盛り上げようと、歌舞伎弁当を作ったり、地歌舞伎の由来を学んだりすることで、ふるさとを愛する心を育てている。

② 15:35~16:05

小学校 ふるさと教育・キャリア教育

ふるさとに愛着と誇りをもてる児童の育成を目指して
～浅利氏の足跡を紐解く学びを通して～

大館市立東館小学校 教諭 福司 一夫
教諭 宇佐美裕美

4月にふるさとキャリア教育計画の策定を行った際に、地域を題材にした学びを多く取り入れることで、東館地区に誇りと愛着をもてる児童の育成を図っていくことを確認した。本校校歌の2番の歌詞に火内（比内）地区を統治していた浅利氏のことが歌われていることを知っている児童が多かったこともあり、浅利氏の学びを深く探究することで、地元への誇りや愛着の気持ちを育むことをねらって行った実践である。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 F会場 1階 大研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

幼・保・認定こども園等 就学前教育
【文部科学省委託 わか杉っ子！育ちと学びステップ
アップ事業】

**0~15歳までの育ちを支えるために
~保育力向上と幼児教育・小学校教育の円滑
な接続を目指して~**

横浜市教育委員会教育指導部教育指導課
指導主事 小川由美子

横浜市では、小中学校の連携体制により9年間を見通した教育が行われてきている。さらに、就学前教育の研究推進体制を図るための取組をスタートした。幼小の円滑な接続を目指した協議会や研修会、また就学前教育・保育の質の向上を図るための園への指導・支援など、連続した子どもの教育を支えるための行政としての取組について紹介するとともに、その成果や課題について提案する。

② 15:35~16:05

幼・保・認定こども園等 就学前教育

**育成すべき資質・能力の育成を目指す幼小接
続の取組
~醍醐小学校区におけるカリキュラム・マネ
ジメントを通して~**

社会福祉法人 育童会 醍醐保育園
主任保育士 佐藤奈緒美

醍醐地区幼小連携協議会を発足し、乳幼児期から小学校期における子どもの発達及び学びの連続性を確保するため、小学校と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を通した子どもの姿を共有し、連携・協力しながら、保育園・小学校・中学校までの育成すべき資質・能力系統表を作成した。この系統表や全体的な計画に基づき、自園の指導計画を職員で見直しを図った取組について発表する。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~15:20 G会場 1階 小研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

特別支援学校 特別支援教育 学校運営

**地域とともにある学校を目指して
~コミュニティ・スクールの取組を通して~**

県立ゆり支援学校 教諭 熊地 需

本校は、県内特別支援学校初のコミュニティ・スクールである。地域応援活動「みんな元気プロジェクト」を中心とした教育実践を紹介する。また、学校運営協議会の取組と教育活動の関係性や地域との連携の実際を紹介する。その一連の取組を通して「教育活動の見直し」から「地域につなげる」までのLRDCという4段階のコミュニティ・スクールのマネジメントサイクルを提案し、これからの地域における学校の在り方を考える機会としたい。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 H会場 2階 中研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

高等学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

**ディベートを取り入れた言語活動の取り組み
~発信型英語運用能力の育成を目指して~**

県立秋田北鷹高等学校 教諭 山條 陽子
教諭 高橋矢壽子
教諭 伊藤 健吾

本校は昨年度から「拠点校・協力校英語授業改善事業」の指定を受けている。「ディベートを取り入れた言語活動による指導と評価」を教科研究主題とし、学年ごとに段階的に目標を設定しディベートの要素を取り入れた授業を展開している。今年度の2, 3年生の授業実践例とその成果及び研究最終年度に向けての課題について報告する。

② 15:35~16:05

高等学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

**英語授業におけるディベートの活用と評価の工夫
~表現力と思考力の向上を目指して~**

県立本荘高等学校 教諭 鈴木 瑞穂

本校の1年生及び2年生におけるディベートの要素を取り入れた授業の展開を提案する。1年生においては、即興で話すことを重視して反論する活動を中心に取り組んでいる。2年生においては、ディベートの完成形を目指した反論に対する再反論に重点を置いた活動を行っている。自分の意見とは異なった立場で、理由と共に反論できるための段階を踏んだ活動を提示し、表現力・思考力向上のツールとしてのディベートの活用を考察する。

□頭発表

2月6日(木) 14:50~16:05 I会場 2階 音楽研修室

<提案のポイント>

① 14:50~15:20

小学校 外国語活動・外国語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

**拠点校・協力校英語授業改善事業に係る取組
~児童の英語力と教師の指導力向上を目指して~**

三種町立琴丘小学校 教諭 長谷川 礼
教諭 大山 祐子

本校では、2年間にわたる本事業の指定を、来年度に迫る学習指導要領の全面実施に向けた良い機会と捉え、外国語活動と外国語の授業改善を目指してきた。指導体制や校内研修の在り方を工夫して職員の外国語に対する意識を高めることができた。クラスルームイングリッシュの活用で教師の英語発話量増加と指導力向上を図った。また、児童の発話量やコミュニケーションの場を増加させるために、スモールトークの充実など授業改善を重ね大きな成果があった。

② 15:35~16:05

中学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

**コミュニケーションの目的・場面・状況等を理解しながら、自分が伝えたいことを主体的に表現する力を育てる指導
~学び合おうとする集団づくりを通して~**

三種町立琴丘中学校 教諭 市川 聖子

「拠点校・協力校英語授業改善事業」の指定を受けて2年目となる今年度は、1年目で見えてきた成果と課題を基に授業改善を進めてきた。昨年からの取組に加え、即興でのやり取りに不可欠な質問力を高める言語活動の工夫、対話的な学びを重視した授業展開の構築、主体的な学び合いを支える思考ツールの活用、バックワードデザインによる単元の指導計画などに取り組んだ。これらの実践について、本事業の趣旨と自校の研究の重点を関連付けながら紹介したい。